

性ま生展

2020.

2.26 水 - 3.23 月

平日 9:00>18:00 土日祝 9:00>17:00 | 火曜日休館 | 入場無料 free entrance

しんらん交流館 1F 交流ギャラリー

Hall

女性室

真宗大谷派（東本願寺）

キュンチョメ (アートユニット)

KYUN - CHOME

一名前で重要なのは、名前には親の愛情が必ず入っているということ、あと性別の情報が入っているということなんです。この2つの“情”を書き換えた人たちの新しい名前を、私はすごく美しいと思いました。新しい名前には、「自分はこう生きたい」という思いが全部詰め込まれている。だからこそ、私はその名前を叫びたくなったんだろうと思います。/ホンマエリ(キュンチョメ)

【ステージナタリー】<https://natalie.mu/stage>「あいちトリエンナーレ 2019」市原佐都子 × ホンマエリ(キュンチョメ) × サエボーグ 座談会 より

いろいろな性を生きる展2上映作品

「声枯れるまで」

(2019)

映像45分(15分×3人)

「Until My Voice Dies」

(2019)

Movie 45min (15min×3)



「わたしは世治」

(2019)

映像11分

「I'm Sage」

(2019)

Movie 11min



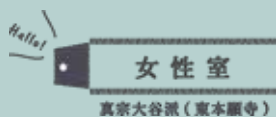
この度、国際女性デー（3月8日）にちなみ、女性室主催「いろいろな性を生きる展2」の展示を行います。

2019年の紅白歌合戦ではレインボーフラッグが振られる一場面があるなど、LGBTQをはじめとする性の多様性について、社会の認識が変わってきたことを感じます。声を上げづらかった当事者たちが、それでも地道に社会へ向かって声を上げ、それに共感する人の輪を広げ動くことによって、この変化は成し遂げられてきました。

私たちは、男か女かどちらかの性別であること、加えて異性愛を前提とした社会生活を送っています。しかしその前提が必ずしもすべての人に当てはまるわけではありません。女性室では、男女ともに相手の声を聴き合い、出会い直したいという願いのもと活動を進めてまいりました。その中で「私たちの姿は見えていますか？」という問いかけを受けることがあり、「男女」という分け方だけでは捉えきれない性のありかたやその問いかけに、どう応答していけるのかということが一つの課題となりました。

今年は、キュンチョメ（アートユニット）の映像作品『声枯れるまで』・『わたしは世治』の上映を通し、昨年の「いろいろな性を生きる」展に引き続き、性の多様なあり方に触れてみたいと思います。作品中、ひとりひとりから語られる、それぞれのジェンダーと名前をめぐるストーリーは、カテゴリー分けや善悪など超えて、そのままの形でこちらまで届いてきます。その生き方に心を揺り動かされながら、私たちの性のあり方について共に考え合う機会になることを願います。

身に染み付いた立場を越えて、「一人^{いちにん}」として、御同朋・御同行としてどう出遇っていけるのか。一人ひとりがお互いの存在を認めあい、いろいろな性をいきいきと生きられる社会になることを願います。



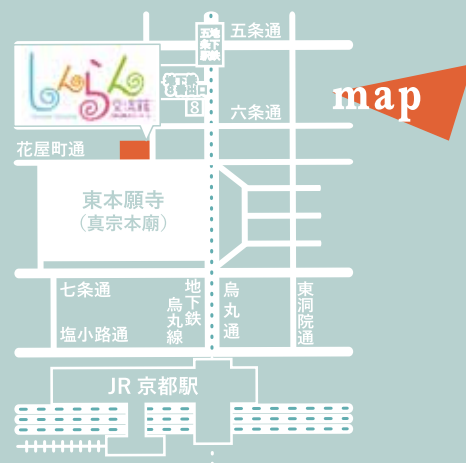
〔主催 / お問い合わせ〕

真宗大谷派（東本願寺）解放運動推進本部

〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199

しんらん交流館内

TEL:075-371-9247



●女性室ってなに？●

私たちを取り巻く性についてのあたりまえ—誰もがあれ？と思っても口に出せない—そんなあたりまえを、みんなで考え話し合う場をつくりたいと活動しています。

女性室 HP

<http://aiou-higashihonganji.net>

あいあうnet



キュンチョメ

2011年東京都にて結成
東京都拠点

ホンマエリとナブチの男女二人によって結成されたアートユニット。自らの嗅覚と欲望に従って国内外各地に中長期にわたり滞在し、行為（アクション）、リサーチ、インタビュー、映像制作を繰り返しながら、その土地の最もコアな現実に入り込んでいくスタイルで活動している。これまで福島、石巻、沖縄、香港、ベルリンなど、社会の分断を抱えた地域での活動を、主に映像インスタレーションとして発表。科学や論理を超えてなお人々が信じようとする「現代の信仰」の対象を探り、そこに渦巻く感情や現実をあぶり出す作品群は、加害者と被害者、当事者と非当事者、善と悪の境界線を揺さぶり、詩的かつユーモラスに異次元へと昇華させる。

【主な作品発表・受賞歴】

|2019| あいちトリエンナーレ |2018| 江陵国際ビエンナーレ 2018 「The Dictionary of Evil」 / 江陵（韓国） |2017| Reborn-Art Festival 2017 / 宮城 |2016| 個展「暗闇でこんにちは」 / 駒込倉庫（東京）

Kyun-Chome

Formed 2011 in Tokyo, Japan
Based in Tokyo, Japan

Kyun-Chome is an artist unit comprised of the female-male duo Eri Homma and Nabuchi. Acting on their keen senses and curiosity, they conduct mid- to long-term residencies in various locations both at home and abroad, performing repeated research, interviews, video creations, and a series of "acts" in order to dig deep into the core of the reality of a particular place. They have created work, mainly in the form of video installation, in socially divided areas such as Fukushima Prefecture, Ishinomaki City, and Okinawa Prefecture, as well as in Hong Kong and Berlin. Kyun-Chome investigates the object of modern faith, which people seek out despite its transgressions of science and logical reasoning. Realized by way of unveiling this faith's underlying emotions and truth, their body of work blurs the boundaries between perpetrator and victim, parties involved and disinterested, and good and evil, poetically and humorously sublimating them.

【Selected Works & Awards】

|2019| Aichi triennale |2018| Gangwon International Biennale 2018: The Dictionary of Evil, Gangwon, South Korea |2017| Reborn-Art Festival 2017, Miyagi, Japan |2016| Hi in the darkness (solo), Komagome Soko, Tokyo, Japan